

「生命のがん教育」を実施しました

(平成 27 年度 1 学期分)

平成 27 年度 1 学期は 12 校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20 分)
- (2) がん経験者のお話 (20 分)

◆授業風景



◎小学校 (4 校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
5 月 1 6 日	亀岡市立詳徳小学校	6 年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 榎村 敦詩
6 月 1 3 日	井手町立井手小学校	6 年	京都大学医学部附属病院 乳腺外科 助教 竹内 恵
6 月 2 1 日	福知山市立佐賀小学校	4, 5, 6	福知山市民病院 副診療部長・外科医長 川上 定男
7 月 1 0 日	福知山市立惇明小学校	6 年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 榎村 敦詩

<児童の感想>

- ☆ 「がん」のことについて学び、「がん」が身近な病気であり、怖い病気であることを理解することができました。改めて命の大切さに気付くことができました。
- ☆ 家族に今日のことを話して、「がん」の怖さなどを知ってもらい、命の大切さに気付いてもらいたいです。両親はときどき、たばこを吸うので、すぐにでもやめてもらうようにしたいです。
- ☆ 家族にがん検診を受けてもらおうと思いました。
- ☆ 子供の時から規則正しい生活をしようと思います。また、たばこは肺がんの原因になるということを家族に伝えたいです。
- ☆ もし身近な人が「がん」になったら、まわりにいる人、みんなで支えられるようにしたいです。

- ◇ 家族や身近な人には、健康診断やがん検診、人間ドックなどを受けてほしいので、声をかけようと思います。
- ◇ 「がん」という病気は早期発見が大事だということがわかりました。
- ◇ 父がたばこを吸っていて心配なので、やめてほしいです。

◎中学校（6校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
5月17日	京都市立東山泉小中学校	6～9*	京都医療センター腫瘍内科 診療科長 安井 久晃
5月28日	福知山市立大江中学校	3年	舞鶴医療センター 外科系診療部長 山下 哲郎
6月16日	京丹後市立丹後中学校	3年	京都府立医科大学附属北部医療センター 消化器内科 医長 堅田 和弘
6月16日	京丹後市立弥栄中学校	3年	京都府立医科大学附属北部医療センター 消化器内科 医長 堅田 和弘
6月22日	八幡市立男山中学校	3年	第二岡本総合病院 副院長 清水 義博
6月23日	京都市立西京高等学校 附属中学校	2年	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 榎村 敦詩

※ 5/17 東山泉小中学校については、全学年（4学年）で実施しました。

<生徒の感想>

- ◇ たばこやお酒をやめてほしいと多くの人に呼びかけたいです。この機会に「がん」というものを詳しく知ることができたので、まだ知らない人に「がん」とはどんな病気かなどを未経験者の私でも伝えることはできると思いました。
- ◇ 命の大切さ、病気と向き合う力、「がん」になった人の言葉を聞くことで、病気を身近に感じ、考えることの大切さを学びました。
- ◇ 命の尊さを改めて知ることができました。
- ◇ 「がん」という病気は、とても身近で、なりやすい病気であることがわかりました。またとても怖いものだと思います。発生するまで10～30年間かかるのに自分自身で気がつくのが遅いというのはとても不幸だと思います。毎日の健康管理、生活習慣が大切だということがわかりました。気を付けたいと思います。
- ◇ 家族に今日、学んだことを伝えて、「がん」を防ぐためにどうするかを話し合いたいです。
- ◇ 今日の学習で、まず基本生活を見直すことが大切だと思いました。規則正しい生活をして、少しでも予防に努めたいです。
- ◇ 自分の命は自分自身で大切にしていかななくてはならないと強く思いました。
- ◇ 「がん」は早期発見することが大切だと思いました。
- ◇ 「がん」のことだけでなく、命の大切さがわかる授業でした。
- ◇ 私も「がん＝死」というイメージを持っていましたが、今日の話聞いて定期健診で早期発見ができると、治療で良くなって、生き続ける確率も高くなることがわかりました。
- ◇ 「がん」などの生活習慣病は日々の積み重ねによってできるものだとわかったので、規則正しい、きちんとした生活を送っていきたいと思いました。
- ◇ 「生きる」ということについて深く考えさせられました。

◎高等学校（2校）

実施日	実施校	学年	担当講師*
6月15日	京都廣学館高等学校*	3年	京都府立医科大学 講師 半田 修
7月9日	京都府立宮津高等学校	2年	京都府立医科大学附属北部医療センター 総合診療科医長、伊根診療所長 石野 秀岳

※6/15 京都廣学館高等学校では たばこについての講義（担当：山城南保健所）も実施しました

<生徒の感想>

- ◇ 「がん」は早期発見が大事だとわかりました。また、たばこには60種類もの有害物質が含まれていることも知りました。
- ◇ たばこを吸っている人だけでなく副流煙を吸っている人にも有害であることがわかりました。
- ◇ 今日話を聞いて、こんなにも身近に「がん」になる人が多くいるとは知りませんでした
- ◇ まだ高校生だから大丈夫ではなくて、大人になった時に困らないよう生活習慣に注意していきたいと思いません。100%防ぐことができるわけではないので、「がん」に関する知識を、今のうちから身につけておくことが大切だと思いました。
- ◇ 医師と患者の二つの立場から「がん」について聞ける貴重な機会でした。
- ◇ 家族と今まで以上にコミュニケーションをとることで、お互いの体調の変化、精神の状態に気付くことができると思うので、一日の出来事などを家族と話せていけたらと思います。
- ◇ 命の大切さというものを改めて学んだ貴重な時間でした。

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：kentai@pref.kyoto.lg.jp